

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第6462641号
(P6462641)

(45) 発行日 平成31年1月30日 (2019. 1. 30)

(24) 登録日 平成31年1月11日 (2019. 1. 11)

(51) Int. Cl.

A 4 7 F 5/10

(2006. 01)

F 1

A 4 7 F 5/10

Z

請求項の数 2 (全 8 頁)

(21) 出願番号 特願2016-208584 (P2016-208584)
 (22) 出願日 平成28年10月25日 (2016. 10. 25)
 (62) 分割の表示 特願2015-9367 (P2015-9367)
 の分割
 原出願日 平成27年1月21日 (2015. 1. 21)
 (65) 公開番号 特開2017-12885 (P2017-12885A)
 (43) 公開日 平成29年1月19日 (2017. 1. 19)
 審査請求日 平成29年7月25日 (2017. 7. 25)

(73) 特許権者 000175560
 三協立山株式会社
 富山県高岡市早川 7 〇番地
 (74) 代理人 110001737
 特許業務法人スズエ国際特許事務所
 (72) 発明者 水谷 威裕
 富山県高岡市早川 7 〇番地 三協立山株式
 会社内

審査官 石井 茂

(56) 参考文献 実開昭58-005863 (JP, U)

特開2006-280905 (JP, A)
)

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 陳列什器

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

左右の脚部と、左右の脚部に立設した側枠と、左右の側枠間に架設した棚枠とを備え、
 左右の脚部間に別の陳列什器の脚部を挿入可能な空間を有し、棚枠は前側を下にして傾斜
 していると共に側枠から前後両方又は前側のみが突出しており、陳列什器を前後に重ねた
 ときに、後に位置する陳列什器の棚枠は、前に位置する陳列什器の棚枠の下側に重ねて位
 置することを特徴とする陳列什器。

【請求項 2】

左右の脚部と、左右の脚部に立設した側枠と、左右の側枠間に架設した棚枠とを備え、
 左右の脚部間に別の陳列什器の脚部を挿入可能な空間を有し、棚枠は、左右の各側枠に設
 けた受け部と、左右の受け部を連結する連結部を有し、左右の受け部は水平に設けてある
 と共に側枠から前後両方又は前側のみが突出しており、連結部は受け部よりも下方に位置
 しており、陳列什器を前後に重ねたときに、後に位置する陳列什器の受け部は、前に位置
 する陳列什器の連結部の上に位置することを特徴とする陳列什器。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、陳列什器に関する。

【背景技術】

【0002】

従来の陳列什器 101 は、図 5 に示すように、左右の脚部 103 a、103 b と、左右の脚部 103 a、103 b の前後方向中央部を連結材 105 で連結してあり、左右の各脚部に側枠 107 を立設していた。そして、側枠 107 間に棚枠 109 を設けていた。

この従来の陳列什器 101 は、非使用時にも使用時と同様に単独で置くようにしてあり、複数の陳列什器 101 の非使用時には大きな収納スペースを必要としていた。

【先行技術文献】

【非特許文献】

【0003】

【非特許文献 1】第 301 頁「タテヤマアドバンス タテヤマゴンドラ TATEYAMA GONDORA 2012.6」商品コード 098221SE 三協立山株式会社
タテヤマアドバンス社 2012 年 6 月発行

10

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

これに対して、非使用時に重ねて収納することで収納スペースを小さくできる陳列什器が望まれていた。

【0005】

そこで、本発明は、非使用時に重ねて収納できる陳列什器の提供を目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0006】

20

請求項 1 に記載の発明は、左右の脚部と、左右の脚部に立設した側枠と、左右の側枠間に架設した棚枠とを備え、左右の脚部間に別の陳列什器の脚部を挿入可能な空間を有し、棚枠は前側を下にして傾斜していると共に側枠から前後両方又は前側のみが突出しており、陳列什器を前後に重ねたときに、後に位置する陳列什器の棚枠は、前に位置する陳列什器の棚枠の下側に重ねて位置することを特徴とする陳列什器である。

請求項 2 に記載の発明は、左右の脚部と、左右の脚部に立設した側枠と、左右の側枠間に架設した棚枠とを備え、左右の脚部間に別の陳列什器の脚部を挿入可能な空間を有し、棚枠は、左右の各側枠に設けた受け部と、左右の受け部を連結する連結部を有し、左右の受け部は水平に設けてあると共に側枠から前後両方又は前側のみが突出しており、連結部は受け部よりも下方に位置しており、陳列什器を前後に重ねたときに、後に位置する陳列什器の受け部は、前に位置する陳列什器の連結部の上に位置することを特徴とする陳列什器である。

30

【発明の効果】

【0007】

請求項 1 に記載の発明によれば、複数の陳列棚を前後に重ねる際に、前に位置する陳列什器に対して後ろに位置する陳列什器について、脚部を左右に隣り合わせに配置すると共に前側を下にして傾斜している棚枠を前後に重ねて配置することで、前後の陳列什器どうしを深く重ねることができ、収納スペースを小さくできる。

棚枠は側枠から前後両方又は前側のみが突出しているので、前後の載置寸法を大きく取れる。

40

棚枠は前側を下にして傾斜しているので、棚枠に載置した被載置物が前方から見やすい。

請求項 2 に記載の発明によれば、複数の陳列棚を前後に重ねる際に、前に位置する陳列什器に対して後ろに位置する陳列什器について、脚部を左右に隣り合わせに配置し、受け部を左右に隣り合わせに配置すると共に前に位置する陳列棚の連結部の上に配置することで、前後の陳列什器どうしを深く重ねることができ、収納スペースを小さくできる。

棚枠は側枠から前後両方又は前側のみが突出しているので、前後の載置寸法を大きく取れる。

【図面の簡単な説明】

【0008】

50

【図 1】本発明の実施の形態にかかる陳列什器の斜視図である。

【図 2】図 1 に示す陳列什器を 2 つ重ねて収納した状態であって、(a) は最下段に位置する棚枠よりも上の段の棚枠を省略して示す平面図であり、(b) は左右の脚部と斜め連結材を抜き出して示す平面図である。

【図 3】図 1 に示す陳列什器の図であり、(a) は正面図、(b) は側面図、(c) は平面図である。

【図 4】図 1 に示す陳列什器を 4 つ重ねて収納した状態であって、最下段に位置する棚枠よりも上の段の棚枠を省略して示す図であり、(a) は脚部を前面に対して直角に配置した状態であり、(b) は脚部を前面に対して傾斜して配置した状態である。

【図 5】従来の陳列什器の斜視図である。

10

【発明を実施するための形態】

【0009】

以下に、添付図面の図 1 ～図 4 を参照して、本発明の実施の形態を説明する。

図 1 及び図 3 に示すように、本発明の実施の形態にかかる陳列什器 1 は、左脚部 3 a 及び右脚部 3 b と、左脚部 3 a と右脚部 3 b を連結する斜め連結材 5 と、左脚部 3 a に立設した左側枠 7 a と、右脚部 3 b に立設した右側枠 7 b と、左右の側枠 7 a、7 b 間に架設した棚枠 9 a、9 b とを備えている。

左脚部 3 a 及び右脚部 3 b は互いに前後方向で平行に配置してある。各脚部 3 a、3 b は中空材でできており、各脚部 3 a、3 b の下面には前後方向に間隔をあけてキャスト 11 が設けてある。

20

図 1 及び図 2 (b) に示すように、斜め連結材 5 は左脚部 3 a の前側と右脚部 3 b の後側を連結してあり、左右の脚部 3 a、3 b 及び斜め連結材 5 とで、平面視 Z 形状を成している。斜め連結材 5 は中空材でできている。また、斜め連結材 5 と左脚部 3 a で後側に開いた後 V 字空間 V1 を形成しており、斜め連結材 5 と右脚部 3 b で前側に開いた前 V 字空間 V2 を形成している。

【0010】

左側枠 7 a 及び右側枠 7 b は、各々線材でできており且つ一つの線材で形成してある。左側枠 7 a は、左脚部 3 a の前側で立設する前側立設部 13 と、後側で立設する後側立設部 15 と、前側立設部 13 と後側立設部 15 との上端部を連結する連結部 17 とを有し、前側立設部 13、後側立設部 15 及び連結部 17 とで、側面視コ字形状を成している。

30

また、前側立設部 13 と後側立設部 15 とは互いに平行にしてある。

右側枠 7 b も左側枠 7 a と同様の構成であり、前側立設部 13 と後側立設部 15 と連結部 17 とで側面視コ字形状に形成してある。

尚、図 3 (b) に示すように、左側枠 7 a 及び右側枠 7 b は、後側へ傾斜して立設している。

【0011】

図 1 及び図 3 に示すように、棚枠 9 a、9 b は、本実施の形態では 3 つあり、最上位置にある略水平棚枠 9 a と、その下に設けた 2 つの傾斜棚枠 9 b、9 b である。各棚枠 9 a、9 b は、左受け部 19 a と、右受け部 19 b と、左右の受け部 19 a、19 b の中間部を連結する連結部 21 を有している。また、各棚枠 9 a、9 b は、左右の側枠 7 a、7 b と同種の線材でできている。各棚枠 9 a、9 b の左受け部 19 a 及び右受け部 19 b は同じ構成であり、略長形状で前後に長く形成してある。各受け部 19 a、19 b の前端部には上方に突設した前側規制部 23 が形成してある。この前側規制部 23 は棚枠 9 a、9 b に載置したボックス (後述する) 27 が前側に滑って突出したり、落ちるのを防止するものである。

40

略水平棚枠 9 a の下にある 2 つの傾斜棚枠 9 b、9 b は、前側を低くして前後に傾斜しており、最上段の略水平棚枠 9 a は、略水平にしてある。

【0012】

傾斜棚枠 9 b、9 b の連結部 21 は、前後に間隔をあけて水平に配置した前側連結材 21 a と後側連結材 21 b とを有し、前側連結材 21 a は左側端を左側枠 7 a の前側立設部

50

1 3 に固定してあり、右側端を右側枠 7 b の前側立設部 1 3 に固定してある。後側連結材 2 1 b は左側端を左側枠 7 a の後側立設部 1 5 に、右側端を右側枠 7 b の後側立設部 1 5 に固定してある。

最上位置にある略水平棚枠 9 a の連結部 2 1 は前側連結材 2 1 a のみであり、前側連結材 2 1 a は、左側端を左側枠 7 a の前側立設部 1 3 に、右側端を右側枠 7 b の前側立設部 1 3 に固定してある。略水平棚板 9 a の前側連結材 2 1 a は左受け部 1 9 a と右受け部 1 9 b との間が、約線材の厚み分だけ下方に凹んだ凹部（図 1 及び図 3（b 参照））2 5 としてある。

各棚枠 9 a、9 b は、連結部 2 1 よりも前方に突出した左受け部 1 9 a と右受け部 1 9 b との間で前側空間 S 1 を形成している。更に、左受け部 1 9 a と右受け部 1 9 b は、連結部 2 1 よりも後方に突出して後側空間 S 2 を形成している。

10

【0013】

次に、本実施の形態にかかる陳列什器 1 の商品陳列（使用時）について説明する。

図 3（b）に示すように、各棚枠 9 には、商品を収納したボックス 2 7（図 3（b）中に一点鎖線で示す）を載置して、商品を陳列する。ボックス 2 7 は上面が開口して商品を出し入れするようにしてある。

陳列什器 1 は、約 1 0 0 mm の高さであり、各ボックス 2 7 内を上から見るができる。尚、図 3（b）中に二点鎖線で示すのは、後ろに重ねた陳列什器 1 である。

【0014】

陳列什器 1 による商品陳列終了後には、各ボックス 2 7 を棚枠 9 から降ろして、図 1 に示す非使用状態とした後、下記に記載するようにして複数の陳列什器 1 を重ねて収納する。

20

まず、図 2（b）に示すように、前側の陳列什器 1（図中実線で示す）の左脚部 3 a の右側に、後側の陳列什器 1（図中二点鎖線で示す）の左脚部 3 a を隣り合わせに配置し、前側の陳列什器 1 の斜め連結材 5 の後に後側の陳列什器 1 の斜め連結材 5 を隣り合わせに配置する。また、前側の陳列什器 1 の右脚部 3 b の右側に、後側の陳列什器 1 の右脚部 3 b を隣り合わせに配置する。

これにより、図 2（a）に示すように、後側の陳列什器 1 の左側枠 7 a 及び左受け部 1 9 a は、前側の左側枠 7 a 及び左受け部 1 9 a の右側に隣り合わせに位置し、後側の陳列什器 1 の右側枠 7 b 及び右受け部 1 9 b は、前側の右側枠 7 b 及び右受け部 1 9 b の右側に隣り合わせに位置する。即ち、各棚枠 9 a、9 b では、左右の受け部 1 9 a、1 9 b が、連結部 2 1 から前方に突出しているとともに、左右の受け部 1 9 a、1 9 b 間に空間 S 1 を形成しているので、前側の陳列什器 1 の右受け部 9 b 及び右側枠 7 b を、後側の陳列什器 1 の空間 S 1 に配置することで、複数の陳列什器 1 を順次後に深く重ねて収納することができ、収納スペースを小さくできる。

30

尚、図 3（b）に示すように、前側の陳列什器 1 の最上段に位置する略水平棚枠 9 a の連結部 2 1 では、線材分だけ下方に凹んだ凹部 2 5 において、前側連結材 2 1 a の上に後側の陳列什器 1 の略水平棚枠 9 a の左受け部 1 9 a の前側が乗り上げる。これにより、後側の陳列什器 1 の略水平棚枠 9 a の左受け部 1 9 a は連結部 2 1 を超えた前側の位置に配置することができ、前側の陳列什器 1 と後側の陳列什器 1 を深く重ねて収納することができ、収納スペースを小さくできる。

40

【0015】

本実施の形態にかかる陳列什器 1 によれば、前後に順次陳列什器 1 を重ねていくことで、図 4（a）に示すように、4 つの陳列什器 1 を重ねて収納する。これにより、非使用時に複数の陳列什器 1 を重ねて収納することで収納スペースを小さくできる。

図 3（b）に示すように、上から 2 段目及び 3 段目にある傾斜棚枠 9 b は、前側を低くして前後に傾斜しているので、前後の陳列什器 1、1 では、前の傾斜棚枠 9 b の後側の下に後の傾斜棚枠 9 b が位置するので、左受け部 1 9 a 及び連結部 2 1 は、平面視では上述した左右の隣り合わせになる配置となるが、後側の左受け部 1 9 a 及び連結部 2 1 は前側の棚枠 9 の下側に位置する。このように、棚枠 9 b を傾斜させることにより、簡単に重ね

50

ることができる。

左右の側枠 7 a、7 b は後側へ傾斜して立設しており、各傾斜棚枠 9 b、9 b は前側を下にして傾斜しているため、上下の傾斜棚枠 9 b、9 b に載置したボックス 2 7 を下側ほど前に配置でき、棚枠 9 b、9 b に載置したボックス 2 7 内が見やすい。

【0016】

左右の脚部 3 a、3 b は、互いに前後方向で平行に配置してあるので、複数の陳列什器 1 を左右に一列に並べて配置したときに、左の陳列什器 1 の右脚部 3 b と右の陳列什器 1 の左脚部 3 a とを隣り合わせに隙間なく並べることができる。また、隣り合う陳列什器 1、1 間を隙間なく並べることで整然と配列でき外観が良い。

左右の脚部 3 a、3 b と斜め連結材 5 とで Z 形状を形成し、前側 V 字空間 V 1 と後側 V 字空間 V 2 とを形成しているため、左右の脚部 3 a、3 b 間では、前側及び後側のいずれの側からでも陳列什器 1 を重ねて収納できる。

【0017】

各棚枠 9 a、9 b において、左右の受け部 1 9 a、1 9 b は、連結部 2 1 の前側と後側とで前後に突設して設けてあるから、前後方向における受け部 1 9 a、1 9 b の長さを長くでき、前後寸法の長いボックス 2 7 を安定して載置できる。

更に、最上段の略水平棚枠 9 a では、左右の受け部 1 9 a、1 9 b 間では、連結部 2 1 の前側空間 S 1 及び後側空間 S 2 を形成しているから、受け部 1 9 a、1 9 b を前後に長くしても、陳列什器 1 を前後に深く重ねて収納し、前後方向の収納空間を小さくできる。

左右の側枠 7 a、7 b 及び棚枠 9 a、9 b は線材からなり、左右の脚部 3 a、3 b 及び斜め連結材 5 は中空材としているため、軽量で且つ材料コストを安価にできる。

【0018】

本発明は、上述した実施の形態に限らず、本発明の要旨を逸脱しない範囲で種々変形可能である。

例えば、図 4 (b) に示すように、陳列什器 1 を重ねる際には、前面に対して左右の脚部 3 a、3 b が傾斜位置にして重ねても良い。この場合には、収納幅 W 2 は、図 4 (a) に示す脚部 3 a、3 b を前面に対して垂直にして重ねる場合の収納幅 W 1 よりも小さくできる。

斜め連結材 5 は、左脚部 3 a の後側と右脚部 3 b の前側を連結するものであっても良い。

陳列什器 1 は、2 段目及び 3 段目の傾斜棚枠 9 b を、最上段の略水平棚枠 9 a としても良い。また、最上段の略水平棚枠 9 a を傾斜棚枠 9 b としても良い。

各棚枠 9 a、9 b は、左右の受け部 1 9 a、1 9 b を連結部 2 1 よりも前側にのみ突出する構成としても良い。

【符号の説明】

【0019】

- 1 陳列什器
- 3 a 左脚部
- 3 b 右脚部
- 5 斜め連結材
- 7 a 左側枠
- 7 b 右側枠
- 9 a 略水平棚枠 (棚枠)
- 9 b 傾斜棚枠
- 2 1 連結部
- 1 9 a 左受け部
- 1 9 b 右受け部
- S 1 前側空間 (空間)

10

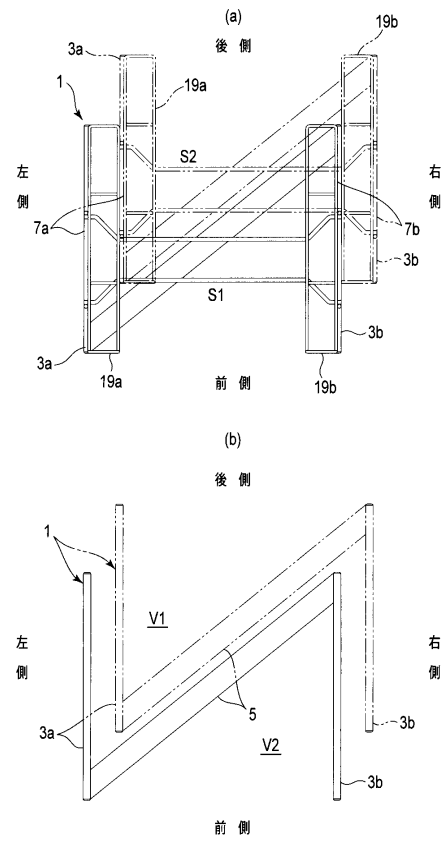
20

30

40

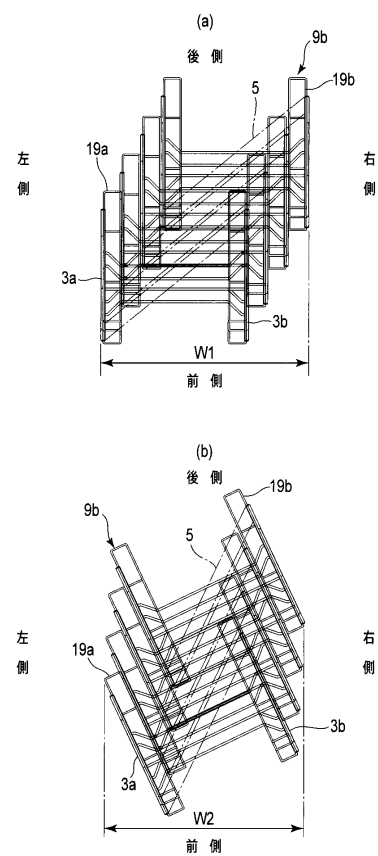
【 図 2 】

图 2



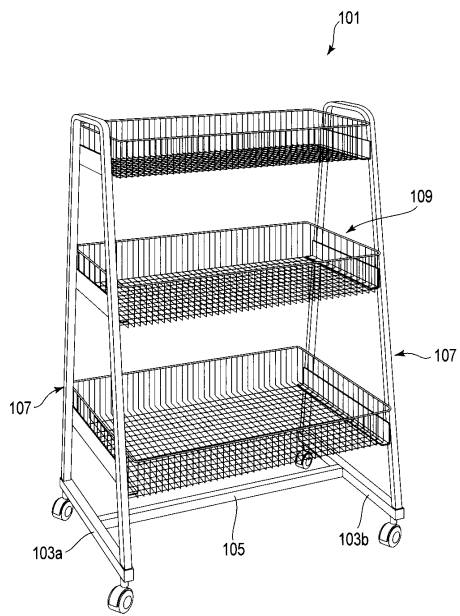
【 図 4 】

图 4



【 図 5 】

図 5



フロントページの続き

(58)調査した分野(Int.Cl. , D B 名)

A 4 7 F 5 / 0 0 - 8 / 0 2

A 4 7 B 3 1 / 0 0